二〇二五年一一月二九日

一椀の柚かほり立つ夕餉かな　澄子
黄落の絨毯を子ら駆け回り　やよい
大海へ拳突く声寒稽古　みきお

二〇二五年一一月二八日

持ち寄りはリクエストなる茸飯　こすもす
弟に編みしセーター今形見　ほたる
茶の花の訪ひ来る人もなく暮るる　よし女
遺愛なる侘助真白樹木葬　むべ
城紅葉ライトアップに炎上す　やよい

二〇二五年一一月二七日

広池の日だまりを知る鴨の陣　よし女
末枯れて風吹き渡る夕河原　むべ
霧ごめのラジオ体操音頼み　うつぎ
冴えざえと鎌の月挙ぐ天守閣　やよい

二〇二五年一一月二六日

池小春亀半眼に甲羅干し　かかし
里吟行愉しをちこち柿花火　むべ
寒菊のひと塊が暮れ残る　澄子

二〇二五年一一月二五日

錦秋にうづもる古寺の甍かな　もとこ

二〇二五年一一月二四日

神杉の秀に物見せる寒鴉　明日香

二〇二五年一一月二三日

蛇口よりアルプスの水駅小春　なつき
高札を掠めて行きぬ草の絮　うつぎ
裸木にとまりて鞠となる雀　和繁

毎日句会みのる選・二〇二五年一二月一日